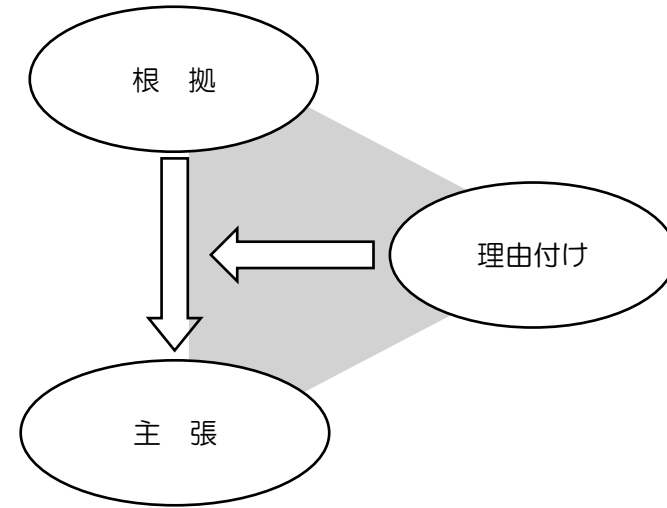


# 三角ロジック

説得力のある議論をするための6つの基本要素【主張・事実・理由付け・裏付け・限定・反証】の論証モデルを単純化したもので、【根拠】客観的な事実・データ、【理由】事実・データに基づく推論・解釈、【主張】結論で構成される。

導入段階では、授業中の児童生徒の発言からすぐれたもの（文章中の根拠をあげた発言、理由を具体的に述べた発言）を高く評価するようにしたい。また、「根拠」や「理由」がはっきりしない発言に対しては、「どこから分かるの?」「なぜそう言えるの?」と言うように教師が問いかけて「根拠」や「理由」を補うようにしたい。こうした地道な指導によって、「根拠」や「理由」の必要性を理解していく。

## 三角ロジック



### 【期待できる効果】

- ①「根拠」と「理由」を区別することによって、主張が具体的でわかりやすくなり、説得力が高まる。
- ②特に、理由付けにおいて自分の既有知識や生活経験をもとに類推することによって、学習内容が自分自身にも関連することとして実感的に理解できる。そのため、学力差にとらわれない開かれた学びが期待できる。
- ③自分の意見を発表し、それぞれの「根拠」や「理由」を検討し合うことによって、授業が対話的かつ協働的なる。自己と異なる意見に出会うことで「自分の考えの狭さや誤りに気付く」「他者の考え方のおもしろさやすばらしさに気付く」といったメタ認知や学び合いが起こる。

## 三角ロジック 例

